

授業評価報告書

教育心理学教室・富田英司

1. 授業の概観

本授業の目的は、教育心理学に関連した調査に関する基本的知識と具体的な手法を獲得することであった。授業の到達目標は以下の5つであった：(1) 調査法を用いた研究の計画，質問紙の設計/作成/実施/入力/初歩的なデータ分析が出来るようになること，(2) マイクロソフト・エクセルを用いてデータの入力/管理がおこなえること，(3) 統計パッケージを用いて，グラフの描画，相関係数の算出，重回帰分析，因子分析を行い，その分析の結果を論文に記述することができること，(4) オンライン上で協同作業をすすめるためのICTリテラシーを身につけること，(5) 協同で仕事を進めるために必要な集団作業のマナーを身につけること。

授業における中心的な活動は，実際に自分たちでオリジナルの質問紙を企画し，作成，配布，入力，集計，分析，プレゼンテーションといった一連の関連した活動を全て行うというものであった。そのために受講生11名を3つのグループに分割し，それぞれで1つの研究活動を進めた。

2. 授業評価法

最終授業では，統計に関するテストとその解説を行った後，授業に関するアンケートを行った。アンケートの主要な内容は，「楽しさ」「充実度」「困難度」に関する5段階の評定であった。この評定は，今回のプロジェクト法による授業内容の各フェイズについて行われた。図1の下部に示したように「テーマ構想」から「プレゼンテーション」まで，9つのフェイズについて評定を行った。

3. 授業評価結果

図1は本年度の調査結果を示している。今回は比較のために，図2に昨年度の調査結果も示した。以下では，適宜昨年度と比較しつつ，今回の授業について振り返りたい。

まず前年度と同じ傾向だったのは，(1) 最初のテーマ構想が最も楽しいと感じられていること，(2) 質問紙作成とデータ分析，プレゼン準備が困難であると感じられており，特にデータ分析が最も困難であると感じられてい

ること，(3) データ分析以降，徐々に楽しさの評定が高くなっていくこと，(4) 困難であると認識されている質問紙の作成フェイズでは，充実度も高いこと，などが挙げられる。

次に今年度の特徴的だった傾向としては，(1) データ入力の楽しさが高いこと，(2) プレゼンテーション時に充実度がそれほど上がらなかったこと，(3) テーマ決定時の充実度が高いこと，(4) テーマ構想時の充実度が低いこと，などが挙げられる。

4. まとめ

全体として，本授業は多くの学生にとって，困難度の高い授業であるが，充実感も高いと言える。このことは次のような学生のコメントからも支持される：「分析はかなり難しかったけれど，充実していたと思います。」「最初から最後まですごく大変で・・・でも，すごく充実していました」「自分自身でやったことで，大変だったこと以上に充実していたと思います」。このようなコメントは11名中7名に見られた。

今回，単純作業であるデータ入力の得点が高かったことから，受講生が，決まったことを着実に進めることを好む傾向にあることが伺われる。

学生からのコメントを参考に，来年度は(1) 分析の前に，分析結果の読み取り方を全体に向けて講義をしておく。(2) 中途半端におわった英文読解についても充実させる。(3) 授業の見通しがわかるように，最初の授業だけではなく，毎回の授業で，いまどこにいて，次にどこにいくのかが分かるように示す。(4) データ収集までのプロセスを前倒しして，十分な時間を分析とプレゼンテーションの準備にかけようとする。(5) 他の授業と違って，自分たちで曖昧模糊とした状況の中で問題設定をし，それに対して自分たちで答えを出すというきわめて自律的な活動がこの授業が求められているということを何度も伝え，この授業のねらいが共有できるようにする。

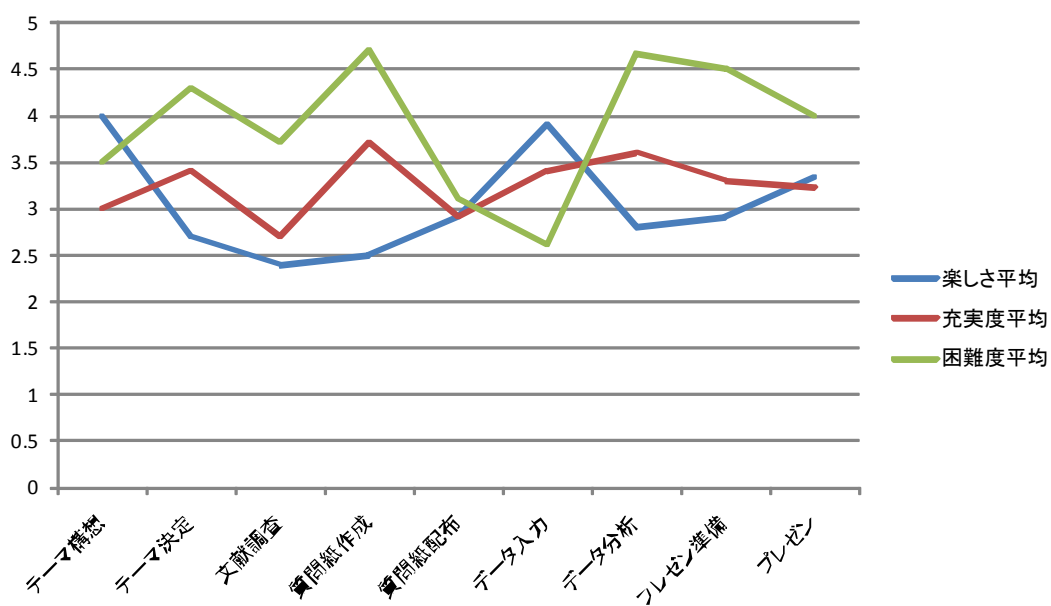


図1 授業の各フェーズを通じた学生の主観的評定（平均値）の時系列的変遷（平成22年度）

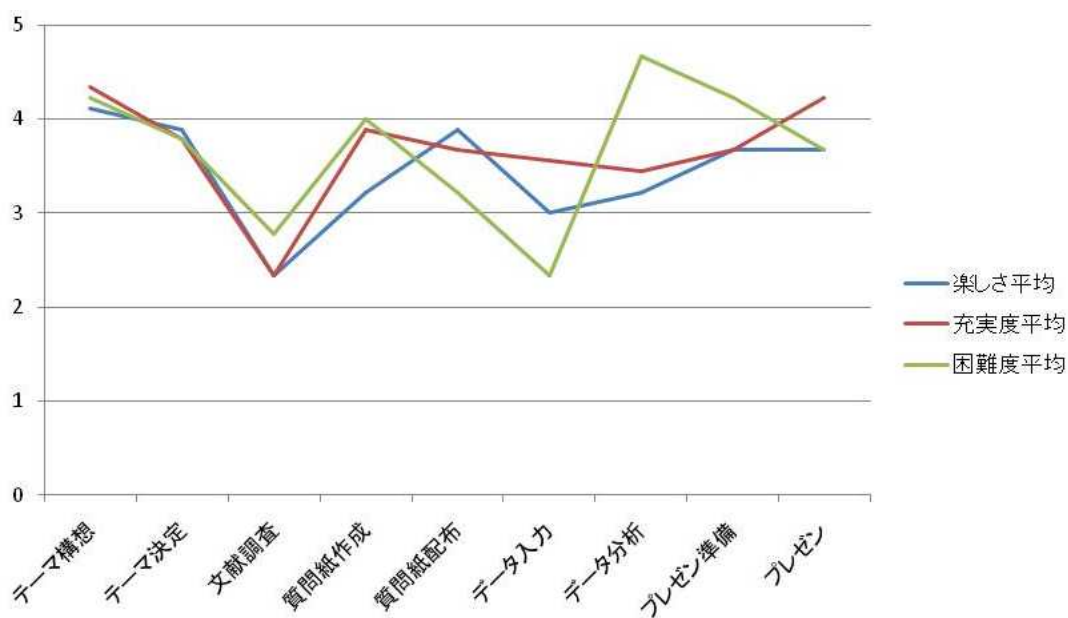


図2 授業の各フェーズを通じた学生の主観的評定（平均値）の時系列的変遷（平成21年度）